

オススメ映画

ドキュメンタリー映画『共犯者たち』

監督 崔承浩

去る1月27日に上映しました韓国ドキュメンタリー映画『自白』に続いて、同じくインターネットメディア《ニュース打破》によるドキュメンタリー映画『共犯者たち』の自主上映会を開催いたします。

同封チラシにありますように、この映画は、李明博、朴槿恵の9年にわたる、公共放送KBSと公営放送MBCに対する言論掌握の過程と、それに対する言論労働者の抵抗の闘いの過程を描いたものです。そのカメラは、『自白』を観た方はお分かりの通り、権力による言論掌握の『共犯者たち』を執拗に追い詰めていきます。真実を明らかにするために。

監督の崔承浩氏はMBCの看板報道番組『PD手帳』の看板プロデューサーでしたが、李明博の言論掌握の過程での解雇後、有志とともにインターネットメディア《ニュース打破》を立ち上げました。それに数万人の市民が呼応して会員となりこれを支えました。

なお、映画上映の後、韓国在住在日三世ジャーナリストの徐台教氏による講演会も開催します。徐台教氏は、毎週、ヤフーニュースや自社サイト《コリアン・ポリティクス》において、韓国政治の今を日本の読者に伝える貴重な働きをしています。今回の首脳会談についても日本語で速報を出し続けました。また当日TBSラジオの『荻上チキ・Session-22』にも生出演しました。NHKの報道番組に出演したこともあります。ご期待ください。

日時:6月16日(土) 午後3時から 場所:イーブルなごや ホール

『共犯者たち』名古屋上映実行委員会

オススメの1冊

昭和天皇の戦後日本

憲法体制にいたる道

豊下楯彦著 発行:岩波書店

この本は戦後アメリカと昭和天皇が日本をどのようにしたのかを「戦後昭和天皇実録」等の資料を基に、天皇がいかに狡猾に立ち回ったかを描写したものである。時間的には1945年8月から1952年4月に至る時期、即ち敗戦からサンフランシスコ講和条約成立までである。

新憲法の発布(1947年5月3日)、東京裁判判決(1948年11月12日)までの間、マッカーサーと昭和天皇の最大の問題は天皇制をどうするのかであった。マッカーサーは天皇制を存続させることで日本を長期的に間接支配することが持つともよいと考えていた。昭和天皇は天皇制が存続すること、また自身が戦争犯罪人として訴追されないことに全力を傾注した。戦争責任を東条英機ら軍部に転嫁し、自らは立憲君主であり、平和主義者であるというポーズをとり続けた。だが、連合国(極東委員会)の中には天皇制の存続に異論があった。そのため、マッカーサーは日本を非軍国主義化して天皇制反対派を抑え込もうとした。ここに新憲法の特色である象徴天皇制と9条がセットとして成立したのである。更に、昭和天皇は内外の共産主義勢力に恐怖を感じた。そのためアメリカ占領軍によって天皇制を防衛してもらうことに努めた。1947年9月には「沖縄メッセージ」発し、日本の主権を残したまま25年ないし50年あるいはそれ以上アメリカの軍事占領を希望する旨を伝えた。1949年10月中国革命の成功、1950年6月朝鮮戦争が勃発すると、昭和天皇はアメリカに天皇制防衛のため、講和条約成立後(すなわち独立後)アメリカ軍の長期駐留を働きかけた。天皇は吉田首相らの考えよりはるかに屈辱的な条件を政府の頭越しに対米交渉まで乗り出した。すでに象徴天皇制が交付されていたにも関わらず明白な憲法違反をした。旧安保条約で「日本が米軍の駐屯を希望し米国はこれを受諾する」「望むだけ軍隊を望む場所に臨む期間だけ駐留させる」という全土基地化方式等、誠に屈辱的な条約ができた。そして、この旧安保条約は新安保条約に引き継がれている。そしてこの体制のもと象徴天皇制、安保体制、沖縄の基地問題等は今日まで引き続き、日本の主要な政治問題になっている。この本のテーマは過去の話ではなく極めて今日的である。

尚、著者はこの本で天皇制論にほとんど触れず、終章で現天皇明人を高く評価している。昨年生前退位をめぐる知識人の動きと同じ天皇と天皇制を区別していないように感じ、私は非常に残念に思う。

(木村公平)

